



卵

長径約0.17mm、短径約0.08mmで、無色透明ないし乳白色の細長い俵形。25°Cで7～9日で孵化し幼虫となる。



幼虫

胴体長0.18mm前後。体は乳白色半透明の楕円形。脚は3対で、体表は細かく規則的な線状紋が見られ、胴体部背面後方の紋理は凸状。25°C、75～80%RHの環境条件下で7～8日で、静止期を経過して第一若虫となるが、湿度が低下すると幼虫期間が延長し、死亡率が上昇する。



第一若虫

胴体長0.25mm前後。体は乳白色半透明の楕円形。脚は4対で、第3脚と第4脚はほぼ同じ長さであるが、跗節は第4脚の方が明らかに長い。胴体部腹面の第4脚基節の間に1対の痕跡的な生殖吸盤が認められる。体表は細かく規則的な線状紋が見られ、胴体部背面後方の紋理は凸状。第一若虫の期間は25°C、75%RHの環境条件下で5～7日で、静止期を経過して第三若虫となるが、静止期が延長し第一若虫期間が16～30日以上かかることもある。



第三若虫

胴体長0.35mm前後。体は乳白色半透明の楕円形。脚は4対で、第3脚と第4脚はほぼ同じ長さであるが、跗節は第4脚の方が明らかに長い。胴体部腹面の第4脚基節の間に2対の痕跡的な生殖吸盤が認められる。体表は細かく規則的な線状紋が見られ、胴体部背面後方の紋理は凸状。第三若虫の期間は25°C、75%RHの環境条件下で7日前後で、静止期を経過して成虫となるが、湿度が低下すると静止期が延長し第三若虫期間が20日以上かかるものもある。



第二若虫

体長0.3mm前後。体は淡橙色。脚は4対。



成虫 ♂

体長0.3~0.4mm前後で、餌の条件により幅が大きい。胴体部は淡橙色ないし濃橙色で、目を持つ。♀に似るが、背板は2枚で、後背板は縦に細長く、4対の房状の毛を持つ。触肢の跗節は脛部の基部に親指状に付き、2本の鎌状の毛と1本の櫛状の毛を持ち、脛節先端に強大な爪を持つ。



成虫 ♀

体長0.3~0.5mm前後であるが、餌の条件により幅が大きい。胴体部は淡橙色ないし濃橙色で、目を持つ。周気管は放物線状で、左右7つの部分からなる。胴背板は前体部に1枚しかなく、鱗状の紋様とさらに細かい線刻が刻まれており、6対の房状の毛を持つ。触肢は細長く、触肢の跗節は脛部の基部に親指状に付き、2本の鎌状の毛と1本の櫛状の毛を持ち、脛節先端に強大な爪を持つ。